

「塩屋笠踊り・塩屋四ツ竹踊り」伝承活動の取組

1 学校名

枕崎市立立神中学校

2 学年・人数

1年生から3年生（計18人）

3 場所・日時

(1) 練習の場所・日時

ア 塩屋公民館（公民館運動会のための練習，4月12日～13日）

イ 塩屋公民館（老人ホーム慰問のための練習，8月20日～22日，9月7日～9日）

ウ 塩屋公民館（南方神社豊年祭のための練習，10月25日～27日）

(2) 発表の場所・日時

ア 塩屋公民館運動会

塩屋公民館横石グラウンド，4月15日（日）

イ 老人ホーム慰問

特別養護老人ホーム（ピースフル立神），9月17日（月）

ウ 南方神社豊年祭

南方神社，10月28日（日）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

塩屋笠踊り（しおやかさおどり），塩屋四ツ竹踊り（しおやよつたけおどり）

(2) 由来

明治初年に村の青年漁師小湊甚四郎ほか3人が，山川港にて沖縄の漁師より習い覚えて伝えられてきた。当初は男性の踊りであったが，明治28年の台風「黒潮流れ」の被害等で地域の男性が少なくなり，それ以来，女性によって踊り伝えられている。

(3) 構成等

ア 構成

「三味線」は1人，「歌い」は4人，「踊り手」は人数に制限はない。昔は若い女性は全員参加し，百人近く勢揃いして踊っていた。その後は，保存会が中学2年生になった女子生徒全員を対象に習得させ踊り伝えられてきた。

イ 衣装等

「笠踊り」と「四ツ竹踊り」は同じ衣装である。「笠踊り」は，浴衣に色帯をしめ，色物の前かけをし，横鉢巻で笠（タカランバッチョ）をもって踊る。笠には赤と青の布をたらし，人が踊るといよりは笠が踊るような踊りである。

「四ツ竹踊り」は、両手に（親指と中指）長さ10～15センチの割竹を2個ずつ付け、その四ツ竹を鳴らし、その音に合わせて躍動的に踊る。

この2つの踊りは、沖縄から伝えられたものである。特色として、装いは艶やかで歌は哀調をおびている。踊りは、しなやかであり、そして躍動的である。

ウ 歌詞

「笠踊り」

獅子にぼたんにや竹に虎 貴方と私やつるとかめ 比翼連理の玉手箱 思えば
イヤ浮世の忘れぐさ アアヤレコレソレソレ千鳥が招く サアヨイヨイ ヨイヤ
ナア

「四ツ竹踊り」

さてもお見事おななはやん笠おとづらうまよ いいてな
しめもせんしいてなやんがさ からしまのふとぎ ふとぎいまえをし いてなし
やんがさこそしをのせて こそさあとのぼいおいなしやんがさわしはいまくだ
る・・・・・・・・

5 保存会や地域との連携の具体

- (1) 踊り手が中学生女子のため、生徒の保護者や保存会役員が面倒を見ている。現在、三味線や歌い手がないため録音による踊りとなっている。
- (2) 練習に掛かる費用は、地域住民の寄付や枕崎市郷土民芸保存会継承費（市補助）等で賄っている。
- (3) 練習は、保存会の指導者数名と母親の協力のもと公民館で行っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

立神塩屋地域では、郷土芸能である「塩屋笠踊り」、「塩屋四ツ竹踊り」を公民館長が保存会の会長となり、公民館の活動項目の中に組み込み、継承・保存に対する協力態勢が確立している。

現在、当地域の中学生女子は、学年の区別なく全員で踊りに取り組んでいる。伝承活動として、これからも毎年引き継いでいくと思われる。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



練習風景 笠踊り



練習風景 四ツ竹踊り



南方神社豊年祭り奉納 笠踊り



南方神社豊年祭り奉納 四ツ竹踊り

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

(1) 保護者から

地域の女子は小学6年生になると、中学生と一緒に練習を行い、披露する本番に備えている。母親が見守る中で指導者にも力がこもり、子どもたちは真剣に練習を行っている。

(2) 教職員から

本校区の各地域では、子どもたちは素晴らしい伝統芸能を継承し、地域で催しがあるときに披露をしている。子どもたちは、それぞれの学年に応じて目標を持って練習している。本校では、直接指導に携わる機会は少ないが、地域の指導者や保存会の皆様の積極的な取組に大変感謝している。

(3) 保存会から

子どもたちは、日ごろ経験しない「縦のつながり」を大切にしながら、継承活動に取り組んでいる。当地域出身の母親は、中学生のときに踊ったことがあるので、女子は皆踊るものだと思っている。本年は、披露の機会を求めて南方神社に踊りを奉納することができた。地域の保護者は、この踊りが文化財として価値があることを理解しており、今後も継承されていくと考える。